Love You

Contents

パートナー …4

ひだまり …10

ふいうち …15

夢 …18

誓い …21

Love You …24

みかん …28

パートナー

パートナー。

転入生がアリス学園に慣れるまで、転入生にはパートナーが付けられる。

アリスという能力について教え、広い学園で迷子にならないよう道案内をし、慣れない寮生活に慣れさせ、通常の学校とは違う授業についていけるように付き合う。授業・生活全般において面倒をみる係りだ。表向きは。

本来の意味は多分違う。

パートナーとは、転入生に分からせる役目なのだ。

お前は、かごの中の鳥なのだと。もうここから逃げることはかなわないのだと。

あいつが来たばかりの頃だ。

夜、ルカの友達の大鷲が飛ぶ姿を見た。やさしいルカのことだ、きっとあいつにほだされたのだろう。

親友に会うためなどという脳天気な理由で、何も知らずにこの学園に転入してきたあの女。自らかごに入ってきた鳥だ。今になって後悔をしても、逃げることなど出来るはずがない。

それでも、逃げられるのならば逃げて欲しいと、そう思った。あの時は。

あいつはその後、驚くほどすぐにクラスにも学園にも馴染んだ。アホみたいなほど素直だからだろうか。棗がどれだけ冷たくあしらっても、へこたれることはなかった。

そして棗に向かって「一緒に帰ろう」と言った。「パートナーだから心配ぐらいする」とも。

棗はパートナーとしての役目を果たした覚えはない。アリス学園は帰りたいと思う場所でもない。

それなのに彼女がそう言うのなら帰りたいと、あの時思った。

ただの檻だったアリス学園が、帰る場所になった。

「パートナー」が、今までとは違った意味に思えた。

あいつがパートナーであること、彼女がこの学園に来たこと、その全てが特別なことのように思えた。

*

「なあなあ、棗。ちょっとお願いがあるんやけど」

授業開始のチャイムが鳴る寸前、蜜柑が棗へと話しかけてきた。

「次の算数の教科書、忘れてしもうたん。見せてくれへん？」

「はあ？」

「一緒に見せてぇな」

面倒そうに眉をしかめる棗に、蜜柑は「お願いや」と両手を合わせる。棗が何かを言うよりも早く、周りにいた連中が騒ぎだした。